

島根県出雲地区
建設業協会
青年部会 会報誌

26号
2024.03

発行人/一般社団法人島根県
出雲地区建設業協会青年部会

青

SEIUN

雲

巻頭言

承前啓後

次世代建設就業者育成事業

令和5年度事業報告



青雲

題 字

元島根県知事 澄田信義 氏



「スクラップ&ビルド」

建設業の工事はスクラップ&ビルドの連続です。住環境や安全性等を高め、物事をより良くするために必要なものがスクラップ&ビルドです。

社会情勢が大きく急速に変革することに対して建設業界や青年部会活動なども、過去から受け継がれている事を踏襲するだけでなく、効果や影響を検証して変革することが必要であり、スクラップ&ビルドをすることで、存在意義を高めていくことが重要です。

青年部会メンバーが先頭に立って、挑戦のためのスクラップ&ビルドをし続けることを期待して、この表紙の写真を選定しました。

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

青雲 26

MAR. 2024 VOL.26
CONTENTS

【巻頭言】

1 承前啓後

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 部会長 岩崎 利行

【次世代建設就業者育成事業】

- 2 次世代建設就業者育成事業の背景と目的／現場見学会・意見交換会の概要
- 3 現場見学会の様子
- 4 意見交換会／建設機械搭乗体験／斐伊川放水路事業記念館視察
- 5 現場見学会に参加して(出雲農林高等学校参加生徒の感想)
- 6 現場見学会に参加して(出雲農林高等学校参加生徒の感想)
- 7 現場見学会に参加して(出雲西高等学校参加生徒の感想)
- 8 アンケート結果
- 9 次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を実施して感じること(考察)
経営研究委員会 委員長 神田 泰弘
- 10 出雲農林高等学校(環境科学科)中学生一日体験入学支援事業
経営研究委員会 委員 手銭 大輔

【令和5年度事業報告】

- 11 第24回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 地域貢献委員会 副委員長 福田 佳典
- 12 意見交換会2023 会員交流委員会 副委員長 石飛 善行
- 13 研修視察に参加して 会員交流委員会 委員 福田 哲也
- 14 出雲農林高等学校出前講座／
2023土木の日 放水路記念館まつり 地域貢献委員会 委員長 山口 匡史
地域貢献委員会 委員 川角 宣広
- 15 建設業魅力アップ広報戦略事業
- 16 しまね建設産業イメージアップ女子会 (株)フクダ 加本 雅美
- 17 新入会員紹介 (有)スエヨン建設 金築 利和／(有)西工務店 西 純平
- 18 新入会員紹介 (有)神門組 手銭 大輔／(有)山崎組 福島 莉緒
- 19 歴代部会長／編集後記 総務広報委員会 副委員長 福代 忠
- 20 青年部会の活動の様子

承前啓後

Before enlightenment

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 岩崎利行



2020年以降、我々の生活に様々な制約を与えてきた新型コロナウイルスが昨年の5月に感染症法上の5類に引き下げられ、少しずつコロナ禍以前の生活をとり戻りつつあります。一見すると前向きな変化のあった一年だったのではないかなと思います。しかしながら、コストプッシュ型のインフレが加速し、また急激な経済活動の変化によって様々な業種で人手が不足する状況となりました。

私たちの足元である建設業界をみれば、建設資材は高騰し、慢性的な人手不足は更に厳しい状況に陥ったのではないかと思います。昨年、厚生労働省が作成した一般職業紹介状況の統計では、有効求人倍率が高い職種の上位5位のうち4つが建設関連の業種となっています。世間の認識では、人材不足といえば介護職や医療職だと思いますが、それを上回る状況となっています。建設業は医療や介護などと同じように、ひとが住み暮らす限り必要な地域の産業です。

しかし、若者はそこで働いている自分の姿をイメージできないと就職先の選択肢に入れないといわれています。

我々青年部会では、継続して次世代建設就業者育成事業と称し、地元高校生を対象とする現場見学会や、中学生を対象とした建設機械の搭乗体験。また実行委員会の一員として参加している「土木の日記念イベント放水路記念館まつり」など様々な年代の若者や子供たちに、仮囲いやバリケードの中の建設業の魅力を伝える活動を行っています。

建設業の2024年問題やDX化など、対応しなければならない新たな制度や技術を抱えています。これらを課題と捉えることなく、建設業の魅力を高めていくチャンスだと考え、若い力と新しい知恵を発揮し、魅力ある地域の建設業をつくるために取り組んで参ります。

最後になりますが、我々、島根県出雲地区建設業協会青年部会の活動にご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に感謝を申し上げますとともに、引き続きご理解ご支援のほどを何卒よろしくご願ひ申し上げます。

次世代建設就業者育成事業

次世代建設就業者育成事業の背景と目的

建設業は国民の生活基盤である住宅・インフラの整備、安全で安心な国土の保全・整備、経済活動の基盤となる施設の整備等を行う役割を担っています。また、地域においては、地域経済を下支えする基幹産業としての役割を果たしており、災害時においてはその保有する人材、資材、機材を活用し、迅速に対応して、地域社会の復旧・復興に貢献します。

このように地域になくはならない産業で、多くの使命を担う建設業の「かっこよさや、やりがい、楽しさ」を高校生に体験してもらい、また働き方改革や最新技術の発展により働きやすくなった業界であることを知ってもらうために、各高等学校の生徒に向けて現場見学会を実施いたしました。青年部会としてはこの見学会を通じて一人でも多くの生徒が建設業に興味を持ち、就職したいと思ってもらえる契機となるべく活動をしております。

現場見学会・意見交換会の概要

- 学校名 出雲農林高等学校・出雲西高等学校
- 開催日 令和5年10月24日(火)
- 参加者 出雲農林高等学校 2年生28名(教員2名)・出雲西高等学校 2年生1名(教員1名)

9:15～12:30	<p>●現場見学会</p> <p>①神門通り線(2工区)防安交付金(街路)工事第9期 発注者 島根県出雲県土整備事務所 受注者 株式会社 中筋組 施工場所 出雲市大社町修理免～大社町杵築南地内</p> <p>②令和5年度出雲湖陵道路東神西地区改良工事 発注者 国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所 受注者 今岡工業 株式会社 施工場所 出雲市東神西町地内</p> <p>○主な内容 ・発注担当より事業概要説明 ・3D測量データを用いた施工概要説明 ・受注業者現場代理人による工事概要説明 ・VR体験 ・AR体験 ・ドローン操縦体験</p>
12:30～13:30	<p>昼食・休憩</p>
13:30～14:20	<p>●意見交換会</p> <p>○実施場所 出雲建設会館 ○内容 ・グループワーク 事前アンケートを基に、主に「建設業のやりがい」をテーマとして出雲地区建設業協会青年部会、しまね建設産業イメージアップ女子会メンバーと意見交換</p>
14:20～16:00	<p>●建設機械搭乗体験・斐伊川放水路事業記念館視察</p> <p>○実施場所 斐伊川放水路事業記念館 他 ○内容 ・建設機械搭乗体験(株式会社板倉重機 協力) ・斐伊川放水路事業記念館 概要説明(出雲市担当者) バックホウ0.45m²台 ・しまね建設産業イメージアップ女子会活動説明 4tローラー 2台 ・ブース展示</p>

現場見学会

■ 神門通り線(2工区)防安交付金(街路)工事第9期



(株)中筋組 糸川様による工事概要の説明



現場施工状況をVRにて体験



完成後のイメージをARにて体験



鳥居の前で集合写真

■ 令和5年度出雲湖陵道路東神西地区改良工事



今岡工業(株) 森様による工事概要の説明



バックホウの操作説明



ドローンの操作説明



皆、真剣にメモをとっています

意見交換会



事前アンケート結果を公表



意見交換会の様子

建設機械搭乗体験



ローラーの搭乗体験



風船を割らない様に慎重に操縦



バックホウの搭乗体験



最後は皆で記念撮影!!

斐伊川放水路事業記念館視察



出雲市都市建設部 中島様による事業内容の説明



斐伊川放水路事業記念館見学の様子

■ 現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 吾郷 愛結

神門通り線の現場見学は、VR体験をしたり、AR体験をしたりしました。時代とともにデジタル化が発達していて、スマホや、タブレットを使って作業することも増えてきていることがわかりました。午後からは斐伊川放水路事業記念館の見学や建設機械に乗る体験をしました。私は、機械操作をすることがすごく苦手です。実際に乗ったときも、とても難しく感じましたが、優しく、丁寧に教えてくださったおかげで、楽しむことができました。建設機械に搭乗するというというとても貴重な体験ができました。

この現場見学を通して私の建設業に対するイメージが変わりました。私は今まで建設業は大変だし、労働時間も長く、休みもあまりないと思っていました。しかし、意見交換会や、働いている現場の人の話を聞く限り、今はしっかり休みもあるし、機械の発達が進んでいて、昔よりも簡単に作業ができるなど、とても働きやすい環境になったということがわかりました。また、女性の方も活躍されていて、すごくかっこよかったです。しかし、建設業は若手不足という問題も抱えています。実際、年齢層は幅広く、いろんな年代の方が働いています。しかし、若い年代の方が少ないということを知りました。事前アンケートの結果で、建設業に対して良いイメージを持っている人は少なく、私と同じように、重労働で休みもなく、危険な仕事だと思っている人がほとんどだとわかりました。そこで現在は週休2日制度で、給料も安定していたり、女性も増えてきたりしているなど現在の状況や、やりがいを感じる仕事だということをもっと発信していくべきだと思います。

これから進路を考えていく時期になりますが、私はまだ決まっていないので、就職を考える際は、建設業も視野に入れてみて、少しでも若い人を増やせるように貢献できたらいいなと思いました。

■ 現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 柳樂 幸希

今回の現場見学会で、実際に工事している場所や建設業の人たちとの意見交換で、建設業について多くのことを学びました。

神門通り線の工事では、VR・ARを使って完成後をイメージした映像や完成したことによる利点などがわかりました。特に、ARで現在の現場にこれから完成させる道路を映し出しイメージを持ちながら施工しているのを見て、すごいと感じました。

街路工事の見学では、働き方改革により今まで3人で3日間かかる測量を、ドローンを使って一人で短時間で測量ができるなど、今の社会に合う設備が整っていました。またバックホウの性能が進化していて、新人のオペレーターの方でも正確に操縦できるようになっていました。街路工事は将来やってみたい仕事だったので多くのことや新たな発見もできました。

建設業協会の人たちとの意見交換では、まず、自分が将来したいことを聞かれ、私は「将来は重機のオペレーターになって、公共施設や道路などを作りたいです。」と答えると、協会の人から「高校生でそこまで将来の夢が決まっているのはすごい」と言われました。学校で書いたアンケートで私たちが思っている建設業のイメージと実際の建設業とは少し違いました。特に、建設業は危険があるイメージがありました。しかし協会の方は、「テレビとかで報道されるほどの事故は滅多に起きない。」と言われました。また残業も少なく、定時に帰れる日が多いことも知りました。最後に協会の人から「建設業の一番のやりがいは、自分が施工した現場が地図に残り、後世まで残ること」と言われました。建設業は表に出ることが少ないが、施工した構造物などが残ることは、建設業の良いところだと思います。

午後は斐伊川放水路事業記念館で、斐伊川放水路を作ることで、「天井川」の斐伊川が溢れないようにするなど、建設業の人たちのおかげで安全に暮らせることができました。

最後に建設機械の搭乗体験をしました。インターンシップでもお世話になった方と一緒にローラーに乗りました。インターンシップでも乗らせていただいたので、ある程度操縦はできました。しかしカーブでの操縦などやったことがなく苦戦しました。

バックホウは慣れているので、教わってすぐに操縦できました。周りの人から「早すぎる」と言われました。しかし自分的には実際に掘削などしてみたかったです。今回の現場見学でインターンシップとは違った発見や、知識を知ることができました。この経験を今後の進路選択に活かしていきたいです。

■ 現場見学会に参加して



出雲西高等学校
普通科2年 緒方マティウス

今回、現場見学会に参加したことで良い体験ができ、たくさんの学びを得ることができました。

当日見学した2つの現場では現場の規模と複雑さに圧倒されました。機械や資材などが巧みに配置され、作業スペースが効率的に配置されている様子は、施工技術の粋を感じさせられました。現場での複雑な工程が進んでいる様子を見て、働いている方の技術力の高さと建設機械の進化によって、スムーズに進行していると感じました。環境への配慮や安全対策もしっかりとされていたことも印象的でした。現場の方もその点を配慮されており、安全性が建設業においていかに重要かを直接現場で教えていただきました。

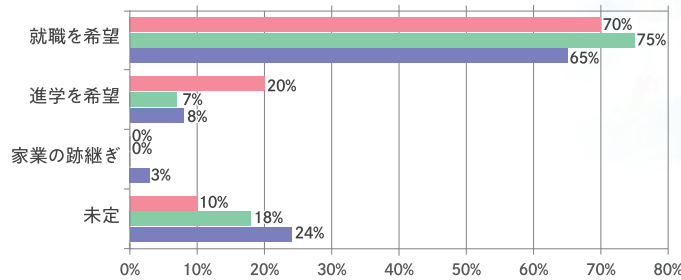
また、現場で働く方の専門的な知識や仕事への熱意を強く感じました。専門性の高い機械を扱う職人さんの姿を見て、非常にかっこよく、建設機械に興味を持つことができました。働いている方々のコミュニケーション能力も優れており、チームワークの重要性を感じました。様々なものの自動化や機械化が進む中でも、現場で働く方は新たなスキルを身に付けることが必要であることはもちろん、人間力の高さや様々なことに対処する柔軟性も大いに必要であり、自分が将来働く際にも、個人のスキルの成長とともに、様々なことへの変化に対する適応力を身に付けなければならないことを理解しました。

建設機械の搭乗体験は初めての経験でとても興奮しました。操縦する際は緊張しましたが、スタッフの方に教えてもらいながら操縦することで、正しく操縦することができて良かったです。

現場見学会全体として感じたことは、ただ機械が稼働しているだけでなく、現場の方の計画や準備と様々な人の協力の結果が、完成されたものの裏側にあることを感じました。自分が現場で働くことを想定して見学すると、建設業の凄さやいかに効率化されていることが、様々なところから感じ取られ、新たなスキルや専門的な知識を得ることができた一日で、感謝の気持ちが湧きました。建設業に対する尊敬と理解が一層深まった貴重な体験となりました。

アンケート結果

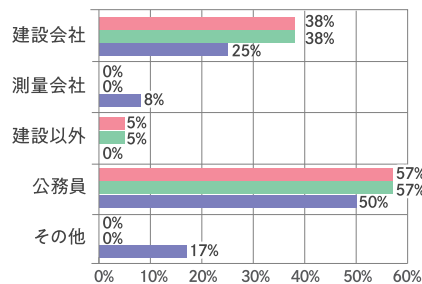
高校卒業後の進路について伺います



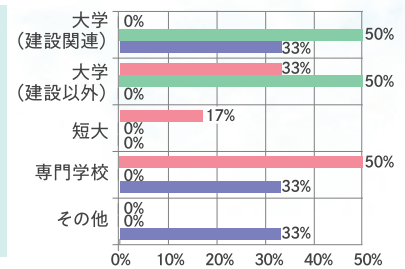
実施日/対象者

- …令和5年10月24日/見学会参加生徒 29名 (出雲農林高等学校28名、出雲西高等学校1名)
- …令和4年10月25日/見学会参加生徒 28名 (出雲農林高等学校28名)
- …令和3年10月26日/見学会参加生徒 40名 (出雲農林高等学校39名、出雲西高等学校1名)

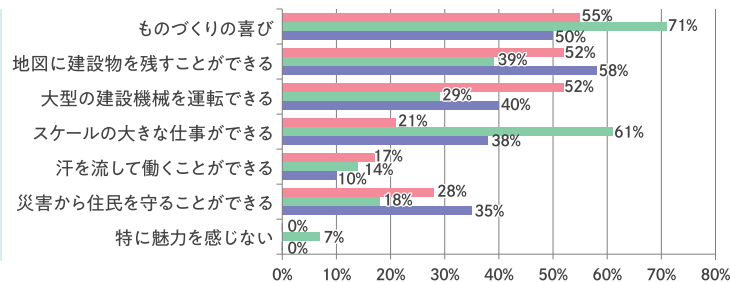
就職を希望した人



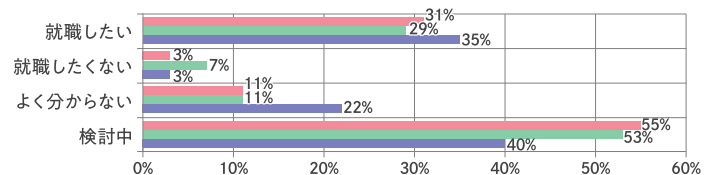
進学を希望した人



建設業の魅力について感じるものは何ですか(複数回答)



本日の現場見学に参加して建設業に就職したいと思いましたが



アンケート結果(まとめ)

今回の次世代建設就業者育成事業では出雲農林高等学校より28名、出雲西高等学校1名の生徒の皆様に参加いただきました。青年部会ではこの事業を通じて、建設業の魅力を伝え、関心を持ってもらい、将来の進路に役立ててもらうことを目的としております。

アンケートの結果では、就職を希望している生徒も多く見られますが、その内実は公務員希望者が多くなっております。建設会社への就職を希望する生徒もいらっしゃいますが、公務員と民間企業のどちらも働きがいがある中で、建設業で働くことのかっこ良さ、やりがい、業界の現在の実態について伝え、生徒の皆様を理解していただき、建設会社への就職という選択肢を作っていただくことが必要だと考えております。

生徒の皆様は建設業者や建設現場で働くことについて、まだまだ知らないことが多いと思います。少しでも生徒の皆様へ建設業の魅力が伝わり、建設業に対する印象を良いものとするため、本事業での現場見学や意見交換は大変有意義なものであると自負しております。

青年部会として将来の出雲市内の建設業界がさらに発展するために、今後も様々な事業を継続的に行い、若い世代へ建設業の魅力を伝え続けていきたいと考えております。

次世代建設就業者育成事業(現場見学会)を

実施して感じること(考察)



経営研究委員会 委員長

今岡工業(株) 神田 泰弘

次世代建設就業者育成事業(現場見学会)は、高校生の皆さんに建設業の魅力や興味を持ってもらう事を目的に平成25年から実施しており、今年度で11回目となりました。

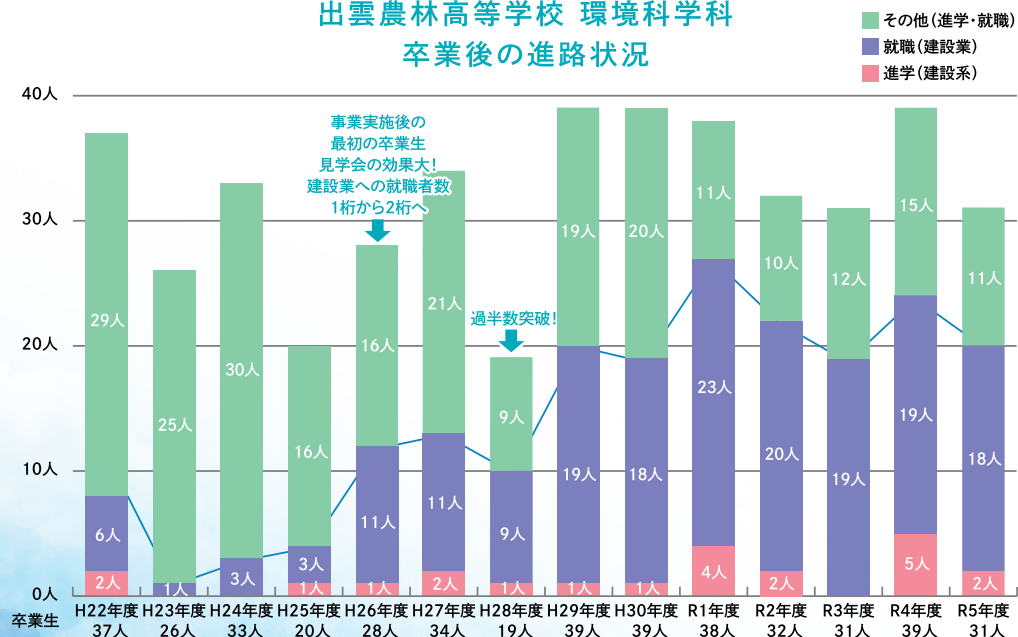
高校卒業後の進路の状況について本事業開始前と開始後の就職先について調査を行いました。開催後のアンケート結果では、建設業への興味や関心を持つ生徒が増加しました。現場見学会を通じて魅力ある建設業を目指す我々の思いが生徒の皆さんに少しは届いたのではないかと思います。

建設業界においては、労働人口の高齢化に伴う人手不足が問題になっています。若い世代の担い手を確保するためには、労働環境の向上(DX化の促進など働きやすい環境を作ること)が重要だと考えられます。

さまざまな課題に直面している建設業界ですが、人々の生活に欠かせないインフラや住居を守る大切な業界です。

青年部会では現場見学会などの活動を通じて一人でも多くの学生に知見を広げてもらい、業界としても不足している担い手の確保に向け、将来的により多くの就業希望者が見込めるように今後も建設業の魅力を伝えていくことが大切だと思います。

出雲農林高等学校 環境科学科
卒業後の進路状況



■ 出雲農林高等学校(環境科学科)中学生

一日体験入学支援事業



経営研究委員会 委員
(有)神門組 手銭 大輔

令和5年8月22日(火)に次世代建設就業者育成事業の一環として、出雲市内外の中学生を対象とした島根県立出雲農林高等学校主催の一日体験入学に、出雲地区建設業協会青年部会の一員として参加しました。

当日は天候にも恵まれ、午前の部2回と午後の部2回で合計60名の中学生が参加し、バックホウの搭乗体験を中心に、建設現場の作業風景のパネル見学や環境科学科の生徒たちの活動内容を収めたDVDの視聴をしていただきました。

私は当日、主に中学生のバックホウの搭乗体験のサポートをしていました。操作方法の説明の際、興味津々な生徒もいれば、操縦したことのない機械に乗ることに緊張している生徒もいました。しかし、いざ自分で操縦してみると、どの生徒も楽しそうにしている姿を見ることができ、建設業の仕事に関心を持ってくれたのではないかと感じることができ、私個人としても有意義な時間になりました。

また、DVD放映・パネル展示については、搭乗体験の合間に見ていただきました。DVDは昨年度の農林高校生を対象とした現場見学会の様子を、パネル展示では、環境科学科卒の青年部会員企業の若手社員の紹介をしました。どちらも限られた時間の中でしたが、「今日の体験入学で建設業と環境科学科への興味がわいた」、「重機を操縦する仕事をしたい」等の声を聞くことができ、建設業の魅力と環境科学科の両方のアピールに繋がったと感じています。

私は青年部会の活動に今年度から参加させていただいていますが、この事業に参加して青年部会は建設業の魅力ややりがいを発信できる貴重な場所だと感じました。来年度以降も学生たちに今後の建設業の後継者を担ってもらえるよう魅力発信を継続し、建設業の担い手となる若者が少しでも増えれば良いと思います。



■ 第24回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 -2023道路清掃-

地域貢献委員会 副委員長
(株)フクダ 福田 佳典



出雲地区建設業協会青年部会の事業として、令和5年9月9日に出雲大社境内ならびに周辺道路の清掃活動を出雲県土整備事務所の職員様9名、会員23名、事務局3名、協力会社4名の合計39名で『第24回ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』を実施しました。

今年は例年と趣向を変え、実施場所を出雲大社周辺に移して開催しました。旧暦10月の「神在月」の観光シーズンを前にした美化活動で地域貢献することを目的としました。加えて、いずもだんだん祭り実行委員会様との連携も行いました。「いずもだんだん祭り」は今年10月に出雲大社や神門通りで初めて開催されたイベントで、それに先立つ9月に祭り参加者による出雲大社での清掃奉仕活動が予定されたことから、当会の新たなPRの機会を期待して同日に同場所で開催することとしました。

迎えた当日は、酷暑続きだった今夏の中では穏やかな天候の中で実施できました。出雲建設会館に集合し、県土整備事務所の渡部所長をはじめとする皆様、協力会社の皆様、そして会員と事務局員の全員で、今年入会の金築君の掛け声によるがんばろうコールを行った後に出雲大社へ移動し、境内と稲佐の浜方面への道沿いの班に分かれ清掃活動は始まりました。

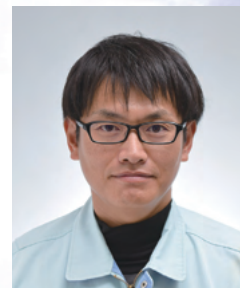
境内のゴミは少なかったものの夏も真っ盛りで雑草が目につきましたが、祭り関係者の人数も多かったこともあり、広い境内もスピーディに清掃することができました。稲佐の浜方面は目を凝らすと歩道脇や植樹帯の中に空き缶、菓子袋などのゴミがありました。特に稲佐の浜沿いは、浜辺から風で飛ばされてきた大きなゴミもあり想像以上の回収量となりました。

今回、場所の変更や、他団体との連携といった新たな試みによる開催でした。建設業の青年による地域貢献は着実にPRできたと思いますが、今後もこのような事業を通じて認知を広められればと思います。そして何より、引き続ききれいな街、出雲を守っていきたくと考えております。

今回参加された方々、大変お疲れ様でした。



■ 意見交換会2023



会員交流委員会 副委員長
出雲土建(株) 石飛 善行

令和5年9月23日出雲地区建設業協会青年部会会員交流委員会の担当する「意見交換会2023」を開催いたしました。

研修会では、出雲建設会館にて、出雲県土整備事務所より企画幹 桐木俊介様、東部県民センター出雲事務所より建築課長 吾郷雅彦様をお迎えし、ご講演いただきました。

桐木企画幹には「ドローンを離陸させるまでに知っておきたい基礎知識」をテーマに、工事現場で近年使用頻度が増加している空中撮影について、実事例を踏まえて法令違反とならないよう有効な活用方法について説明いただきました。現場にてドローンを使用する際に気を付けなければならないことを再認識させていただくよい機会となりました。

吾郷建築課長には「設計・工事監理上の留意事例」をテーマに、日頃の建築設計業務・建築工事監理業務において経験された事例について情報共有することで、同種の不都合等が生じないよう取り組まれていることを説明いただきました。これにより、情報共有の重要性を再認識するとともに、施工業者としても見る目を養うことができました。

研修会でご講演いただいた内容は、青年部会員、また所属企業の業務の参考になる大変貴重な講演でした。研修会終了後は会場を移し、意見交換会を開催いたしました。出雲県土整備事務所から5名、東部県民センターから3名もの参加をいただき、受注者・発注者の様々な視点から意見交換を行いました。ベテランの方々のみならず、若手の方々にも多く参加いただき、業務に関わること以外にも多くのお話をする事ができ、参加された受注者・発注者の親睦をより深めることができました。

ご講演いただきました桐木様、吾郷様、意見交換に参加いただいた方に心より感謝を申し上げます。



■ 研修視察に参加して



会員交流委員会 委員
ヒカワ工業(株) 福田 哲也

今年度の研修視察は愛知県の名古屋城にて「歴史的建造物と共存するまちづくり」、トヨタ産業技術記念館において「モノづくりの精神」を学ぶことを目的として11月1日から2日間の研修を実施しました。

最初の視察先は近世城郭の到達点といわれる名古屋城です。1610年(慶長15年)に完成した名古屋城の築城がはじまった年は1576年(天正4)の安土城築城によって確立されたと言われています。近世城郭築城技術の完成期にあたり、徳川家の威信をかけた名古屋城には、その当時の最新技術が注ぎこまれたことを伺いました。名古屋城内、周辺の整備された街並みをみるとそれぞれが一体となってまちが形成され、歴史的風致が維持されていることがわかり、これが名古屋城の魅力であることがわかりました。

次の視察先は、トヨタ産業記念博物館です。トヨタのものづくりの原点は「自分以外の誰かのために」、「少しでも仕事を楽にできないか」その想いから人力織機を開発、その後自動織機への開発へ繋がっていったことを学びました。また「モノづくりは人づくり」という考えのもと創意工夫、技術と技能、これらを身につけた人財が現場で育てていることが現場力であり、モノづくりの基礎であることを伺いました。これは我々建設業界においても同じであり、建設業界が抱えている経験豊富な技術者不足の課題は待ったなしの状況です。DXにより業務の効率化、生産性が向上しても、最後は現場力を備えた技術者が必ず必要になります。私たちはDXを中心として諸課題を解決しながらも、モノづくりの基礎である現場力を養成していかなければならないと感じました。今後も青年部会の活動に様々な形で活かしていきたいと考えております。

研修後の懇親会ではメンバー同士親睦を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。最後にご参加いただいた会員の皆様方には大変お世話になりました。



■ 出雲農林高等学校出前講座

(島根県土木施工管理技士会出雲支部創立30周年記念事業への協力)

地域貢献委員会 委員長

山口建設(株) 山口 匡史



令和5年6月30日、島根県土木施工管理技士会出雲支部の創立30周年記念事業として、島根県立出雲農林高等学校の環境科学科の1～3年生の生徒、約100人を対象とした出前講座が開催され、青年部会として設営の協力を行いました。

出前講座では梶野支部長の挨拶の後、漫才師「元気丸」のお二方に土木をテーマとした漫才を披露していただきました。土木施工管理技士の資格を持ち、ともに建設業で働いていた経験をもとにした「元気丸」お二方の漫才は、農林高校生だけでなく、青年部会の会員が見ても非常に面白く、会場を大いに盛り上げていただきました。

出前講座の後半では、農林高校卒業後に市内の建設会社に就職した若手技術者4名の方々にも参加していただき、意見交換を行いました。事前アンケートの結果、またそれぞれの経験をもとにした建設業のイメージや仕事のやりがいなどをテーマにした意見交換であったため、参加した生徒が熱心にメモをとる姿が見られました。

今回の出前講座によって、建設業の魅力を感じてもらい、生徒の皆様の進路選択の参考になれば幸いです。

最後にこの事業に参加、協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。



■ 「2023土木の日 放水路記念館まつり」

～のぞいてみよう どぼくの世界～

地域貢献委員会 委員

(有)川角建設 川角 宣広



令和5年11月11日(土)に、斐伊川放水路事業記念館にて、国土交通省出雲河川事務所、島根県出雲県土整備事務所、出雲市、しまね建設産業イメージアップ女子会の皆様と「2023土木の日 放水路記念館まつり～のぞいてみよう どぼくの世界」を開催しました。

コロナウイルスの感染も少し落ち着いたこともあり、同日市内各地で催しが開催されている中、また、悪天候ではありましたが、約500人もの来場がありました。

多くのブースがあり、屋内では、ドボク模型・ミニチュア建設機械の展示・ものづくり体験等を行い、屋外では、建設機械(高所作業車・バックホウ等)の展示・搭乗体験を行いました。やはり、建設機械の搭乗体験は人気があり、2、3回体験を行うお子様や、中には毎年来場されているお子様もいらっしゃいました。



土木の日イベントに来場された皆様に、建設業について少しでも理解を深めていただいたり、子供達には建設機械の搭乗体験、ものづくり体験を通じて少しでも建設業に興味を持っていただけたのではと思っています。

参加された皆様、お疲れ様でした。

■ 建設業魅力アップ広報戦略事業

出雲地区建設業協会青年部会では今年度新たに建設業魅力アップ広報戦略事業として、建設業の魅力が伝わるポスターの作成を行いました。

従来、情報発信については本誌「青雲」を活用してきましたが、当部会の活動報告と建設業の魅力発信の内容が混在していたため、魅力発信部分に主眼を置き、新たな事業として実施したものです。

主に小中学生をターゲットとして、建設業がどのような仕事をしているかを訴求し、今後の職業選択の際に建設業が選択されるようにしていくことが目的です。

市内小中学校や高校以外にも、公共施設に配布しておりますので、ぜひ一度ご覧になってください。



■ しまね建設産業イメージアップ女子会



(株)フクダ
加本 雅美

令和5年10月24日、出雲農林高等学校・出雲西高等学校2年生を対象とした現場見学会に「しまね建設産業イメージアップ女子会」(以下「女子会」)として参加させていただきました。

今回は現場見学後の意見交換会から参加させていただき、女子生徒6人、女子会2人の計8人で建設業に関するアンケートをもとに意見交換をしました。就職への不安や県外への進学・就職へのあこがれ等、率直な意見や質問があり、一緒に参加した若手女性技術者からは自分が高校生の時どう思っていたのか、現在はどんな仕事をしていてどう感じているのか、を話させていただきました。

また、斐伊川放水路事業記念館では女子会の活動についても説明させていただきました。女子会では「しまね建設産業イメージアップカレンダー」や「しまね建設女子図鑑」を発行していますが、知らない生徒さんがほとんどで、自分たちの活動が若い方々に届いていないと知るいい機会となりました。このことから、どういったアプローチがより効果的なのか、建設産業全体の魅力をどう伝えていったらいいのかを女子会で改めて考えてみようと思われました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行され対面での活動も増えてきましたが、出雲地区建設業協会青年部会の皆様には毎年このような貴重な機会をいただき、深く感謝しております。

私たち女子会活動もコロナ禍前に戻りつつあります。こういった活動により建設産業の仕事や魅力が一人でも多くの方々に届き、担い手確保・育成に活かされ、誰もが働きやすい業界になることを願っています。



■ 新入会員紹介



(有)スエヨシ建設 金築 利和

今年度より出雲地区建設業協会青年部会に入会し、地域貢献委員会で活動させていただいております、有限会社スエヨシ建設の金築利和と申します。

高校卒業後、県外で約20年建設業とは異なる生活をしておりましたが、8年前に地元へ帰り有限会社スエヨシ建設へ入社し、建設業に携わるようになりました。

現在46歳で出雲地区建設業協会青年部会に入会させてもらい、建設業協会青年部会では遅めのスタートではありますが、気持ちを若く持ち、青年部会の活動に積極的に参加し、少しでも多くの方と交流し、先輩方の知識や経験を吸収し、出力に変えて建設業の魅力の発信、発展、地域に少しでも貢献できるよう努力してまいります。

これから精一杯務めてまいりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

■ 新入会員紹介



(有)西工務店 西 純平

今年度より出雲地区建設業協会青年部会に入会させていただきました、有限会社西工務店の西純平と申します。会員交流委員会にて、今年度のイベントや行事の立案・進行に携わらせていただきました。

私は県内の短期大学を卒業後、東京の建設会社に就職しておりましたが、地元へ貢献したいという思いもあり、13年前にこの島根県に戻って参りました。

建設業の中でも「建築」という分野を主とする我が社では日々、皆様の生活の基盤となる「住宅」をより快適に、より安心して住んでいただけるよう知恵と手腕を存分に振るっております。

そして、昨今人材不足に喘ぐこの業界において、この「存分に能力を発揮できる場」をいかに社員に提供できるかが、カギとなるものと思います。

『働き甲斐があり、職場環境が快適で、給料が高く、休日が多く、人間関係が良好な』そんな夢のような会社になることは難しくとも、一歩でも近づけるよう将来を見据えて現状把握・情報収集・意識改革を繰り返していきたいと考えております。

またそれを発信していき、共有し合うことで業界全体のイメージアップに繋がられるように、経験豊富な先輩方に学びお知恵をお借りし、また僥越ながら共に切磋琢磨し成長し合えるよう、活動の一つ一つにも精一杯取り組みたいと考えておりますので、どうかご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。

■ 新入会員紹介



(有)神門組 手銭 大輔

今年度より出雲地区建設業協会青年部会に入会し、経営研究委員会で活動させていただいています、有限会社神門組の手銭大輔と申します。弊社に入社し、建設業に携わるようになってから9年目になります。

青年部会へ入会する際、活動内容等、分からないことの方が多く不安が大きかったのですが、高校生に向けた現場見学会やボランティア・清掃活動を通して諸先輩方に優しく接していただき、今では青年部会として活動していくことに大きな喜びとやりがいを感じています。

今年度の経営研究委員会の活動を通して、建設業界の人材不足という問題が改めて深刻であると痛感させられました。数多くの職業選択肢がある中で建設業の仕事を選んでもらい、次の世代の人達にこれからの建設業の未来を担ってもらえるよう、イメージアップを中心に環境を整えていくことを目標に、青年部会の一員として活動に取り組んでいきたいと思ひます。この先も青年部会の活動を通して少しでもこの業界に貢献できればと思ひしておりますのでご指導のほうよろしくお願ひします。

■ 新入会員紹介



(有)山崎組 福島 莉緒

今年度より出雲地区建設業協会青年部会へ入会させていただきました有限会社 山崎組の福島莉緒と申します。高校卒業後、島根県警察官として数か月在籍しておりましたが、平成 31 年度より有限会社 山崎組に入社し 5年が経ちました。この度ご縁があり青年部会に入会させていただくことになりましたので、青年部会の諸先輩方から多くのことを学んでいきたいと思ひしております。活動に積極的に参加し、地域や地元の方々に貢献できるよう尽力していきたいと思ひます。

11月に行われた土木の日イベントでは、たくさんの方にご来場いただき、来場された方とお話することで建設業の魅力が多くの方に伝わったのではないかとと思ひます。建設業の後継者不足が問題視されておりますが、青年部会の活動を通じて、建設業の魅力を発信し、少しでも多くの方に伝わるよう努力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ致します。

歴代部会長

初代部会長	山本 恭 則	平成 9 年度
第2代部会長	今岡 裕 統	平成10～13年度
第3代部会長	別所 幸 雄	平成14～15年度
第4代部会長	広戸 修	平成16～17年度
第5代部会長	久文 秀 典	平成18～19年度
第6代部会長	山崎 章 弘	平成20～21年度
第7代部会長	山口 弥	平成22～23年度
第8代部会長	梅野 直 宏	平成24～27年度
第9代部会長	山崎 育 男	平成28～29年度
第10代部会長	内藤 正 和	平成30～31年度
第11代部会長	森山 竜 人	令和 2～3 年度

編集後記

新型コロナウイルス感染症が「5類」に引き下げられたことで行動制限がなくなり、約3年4か月を経てやっと平時の体制に移行しました。オリンピック・パラリンピックが開催され、世界中のアスリートたちが集まり、スポーツの力が結集し、日本国内外から多くの人々が訪れ、国内経済に大きな刺激を与えました。

建設業界においても、発達AIやロボット技術の進歩により技術革新が進み、様々な面で自動化や効率化が進んでいます。高度なAI技術を活用して設計や施工の効率化が図られ、建設プロジェクトの迅速な進行が可能となりました。さらにデジタル化とIoTの進展により、建設現場の効率と安全性も飛躍的に向上しました。

また、建設業界でも2024年4月から罰則付きの時間外労働の上限規制が開始されます。時間外労働の制限により労働環境や労働条件の改善が進められ、労働者の働きやすさの向上につながりますが、工期の遅れや生産性の低下が懸念される場合もあります。再び魅力ある建設業を取戻せると信じ、業界が一丸となって取り組んでいかなければならないと感じました。

最後になりましたが、今回の青雲にご寄稿いただいた皆様、また一年間委員会活動にご理解、ご協力いただきました全ての方々に心より感謝申し上げます。

総務広報委員会 副委員長
大福工業(株) 福代 忠



青年部会の活動の様子



一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩治善行町2-2
TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

青年部会の活動および青雲については
出雲地区ホームページからご覧いただけます。
下記 URL・QRコードより是非ご覧ください。
URL (<https://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)

